

# 日本看護サミット2021

## 看護職の就業継続が可能な働き方で、看護の未来を拓く

2月4日、日本看護協会は日本看護サミット2021をバシフィコ横浜(神奈川県)。コロナ禍での開催であったため、オンラインによるライブ配信も同時に行なった。本サミットでは、6年ぶりに看護労働政策を取り上げた。

### 解説 看護職の働き方改革

～2015-2020年の取り組みの成果と今後の課題～

日本看護協会 副会長 秋山智弥

最初に本会の秋山智弥副会長より、2015年の日本看護サミットから、現在までの働き方改革を巡る経緯の振り返りが行われた。前年サミットで提言されたワークライフバランス(WLWB)の推進により、多様な働き方が広がり、「子育て世代の就業者の増加に伴うケア要員の確保や一部の看護職への夜勤負担の偏り等の課題にも直面している」と述べた。



秋山智弥副会長

◆2015年以降の新たな取り組み  
本会は日本看護サミット2015以降、病院で働く看護職のキャリアと運動した賃金モデルの提案や暴力・

ハラスメント対策、看護業務の効率化にも取り組んできたことを説明した。  
賃金モデルについては、2019年の調査では、約6割の施設が人事評価を実施するなど、年功のみで賃金を決定する病院は減少傾向にあるが、そのうち「人事評価」と「賃金・処遇」が運動していたのは約6割に

### 鼎談 2020年に向けて、いま看護職に求められる働き方



厚生労働事務次官 吉田 学氏



参議院議員 石田昌宏氏



日本看護協会 前参与友納理緒氏

吉田学事務次官は冒頭、少子高齢化と人口減少の現在の課題に触れ、2040年の人口構造の変化、生産年齢の減少傾向について、今後どのような変化が起きるのか、科学的情報を元にしたテクノロジー活用的重要性を説いた。質の高い医療を提供するため、「ヒューマンパワー」の確保がより重要になるとし、「新型コロナウイルスを通過して、生活を守り支えていくために、さまざまな生活様式の人それぞれに適した労働環境を用意する必要がある」と強調した。  
マクロで進めてきた地域包括ケアや地域共生などの取り組みが、15年先までとらなければならないことを、2040年の看護現場を決める。

「看護職としての専門性やマネジメント管理を学んで、生かしてもらうことが重要」と結んだ。  
友納理緒前参与は多様な働き方の実現には看護管理者が鍵となると述べた。働き方改革の柱には、「処遇改善」「時間や場所の制約の克服」「キャリアの構築」があると述べ、「個々の置かれた状況に応じて柔軟に働き方を選択し、能力を発揮できるように社会を構築していく必要がある」と強調した。  
看護管理者の役割として、自身のWLWBも大切にしながら前置きし、新しい働き方への理解を深めていくと呼び掛けた。特に「労働時間管理」「健康管理」学びが鍵になるとし、女性特有の疾患を個人

とどまっていた。今後は、年功制から、職務・能力・役割に応じた賃金制度への転換やラダー制度との連動、多様な働き方に対応した賃金制度の普及が必要である」と述べた。  
看護職員への暴力・ハラスメントは心理的な安全を脅かし、メンタルヘルスを損ない、さらには離職の原因になることから、本会は看護職員に対する患者・家族等からのハラスメント対策の推進を要望し、国として初の実態調査を実施し、医療現場における暴力・ハラスメント対策のeラーニング教材が公表された。  
◆5要因と10項目の取り組みを提案  
2021年には、2019年に実施した「病院・有床診療所における看護実態調査」の分析結果と労働力の知見等を踏まえ、「就業継続が可能な看護職の働き方」について5つの要因と10項目の取り組みが提案された。  
5要因のうち「評価・処

の問題として捉えず、社会全体の問題として声を上げる必要があるとの考えを示した。  
最後に看護職に求められている働き方として、「能力と意欲のある人たちが主体的にキャリアを形成し、適切に健康を管理しながら働き続けることができる看護現場の実現していくことだ」と結んだ。  
石田昌宏議員からは「持続可能な職場環境へのチャレンジ」として、主に交代制勤務に対する現状の課題が提起された。冒頭、他の業界の交代制勤務では週単位や月単位のローテーションが導入されているが、医療業界は毎日長時間の不安定なシフトで働くことと時差差健康と重ね、(時差)ばけ誘導シフト」と表現。健康の観点から、昼夜が頻頻に入れ替わる不規則な交代制勤務を避けるべきと考えを示した。今後はみんな同じ働き方ではなく、一人一人が自分で選択できる働き方が不可欠、と述べた。  
石田議員からは「働き方」を考えると、プラチナナースの活躍などの働き方の多様性と働く人の「健康」の2つの観点があると述べ、健康に関する環境について議論を進めていくべきだと強調した。  
座長を務める井伊友子副会長は、2040年を見据えて安全で安心な医療を国民へ提供するため、看護職の働き方を見つめ直し、多様な働き方が可能となる労働環境を整える必要性について示唆を得られたと感謝をまわした。



◆特別講演 看護の未来を拓く働き方 ～学ぶ・つながる・楽しむ～  
元厚生労働事務次官 津田塾大学 客員教授 村木厚子氏

元厚生労働事務次官で、津田塾大学の村木厚子客員教授は、少子高齢化に伴う国の赤字財政の深刻化に燃れ、2040年に向けて社会保険・税一体改革を行い、多様な人材が多様な働き方を可能とする労働環境を整備していく重要性を説いた。  
令和の時代は前記の改革と呼ばれる、生産性を上げ、税金や社会保険料を払う人を増やしていく方向に変わってきている。特に女性の社会参加が促される日本では、労働時間や労働環境を理由に、仕事を辞める女性が多いことについて言及し、しかし女性の社会進出が進んでいるほど、合計特殊出生率も高い傾向にあることがグラフを用いて紹介した。  
女性の社会進出に関わる問題に

◆シンポジウム 多様な人材を活かす、多様な働き方  
聖路加国際大学大学院看護学研究科教授 奥裕美氏  
地方独立行政法人新小山市市民病院看護部長 折笠清美氏  
株式会社森山生飯塚病院副院長兼看護部長 森山由香氏  
医療法人社団明和会大野浦病院看護部長 小西美智子氏

◆特別講演 看護の未来を拓く働き方 ～学ぶ・つながる・楽しむ～  
元厚生労働事務次官 津田塾大学 客員教授 村木厚子氏

◆特別講演 看護の未来を拓く働き方 ～学ぶ・つながる・楽しむ～  
元厚生労働事務次官 津田塾大学 客員教授 村木厚子氏

◆特別講演 看護の未来を拓く働き方 ～学ぶ・つながる・楽しむ～  
元厚生労働事務次官 津田塾大学 客員教授 村木厚子氏

◆特別講演 看護の未来を拓く働き方 ～学ぶ・つながる・楽しむ～  
元厚生労働事務次官 津田塾大学 客員教授 村木厚子氏

◆特別講演 看護の未来を拓く働き方 ～学ぶ・つながる・楽しむ～  
元厚生労働事務次官 津田塾大学 客員教授 村木厚子氏

◆特別講演 看護の未来を拓く働き方 ～学ぶ・つながる・楽しむ～  
元厚生労働事務次官 津田塾大学 客員教授 村木厚子氏

◆特別講演 看護の未来を拓く働き方 ～学ぶ・つながる・楽しむ～  
元厚生労働事務次官 津田塾大学 客員教授 村木厚子氏

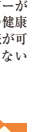
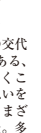
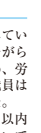
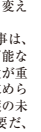
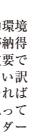
◆特別講演 看護の未来を拓く働き方 ～学ぶ・つながる・楽しむ～  
元厚生労働事務次官 津田塾大学 客員教授 村木厚子氏

◆特別講演 看護の未来を拓く働き方 ～学ぶ・つながる・楽しむ～  
元厚生労働事務次官 津田塾大学 客員教授 村木厚子氏

◆特別講演 看護の未来を拓く働き方 ～学ぶ・つながる・楽しむ～  
元厚生労働事務次官 津田塾大学 客員教授 村木厚子氏

◆特別講演 看護の未来を拓く働き方 ～学ぶ・つながる・楽しむ～  
元厚生労働事務次官 津田塾大学 客員教授 村木厚子氏

◆特別講演 看護の未来を拓く働き方 ～学ぶ・つながる・楽しむ～  
元厚生労働事務次官 津田塾大学 客員教授 村木厚子氏



### サミット宣言

2040年に向けてよりゆめ地域の医療ニーズに応え、新たな看護ケアサービスを創造できるような、働き方を技術的に見直し、多様な働き方を実現するとともに、あらゆる職場において、就業継続が可能な看護職の働き方を推進していくことを宣言します。